

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| | | | | |
|---------------|---------------|------------|-------|--------|
| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
| 27-156 | 高等学校 | 地理歴史科 | 世界史 A | 1～3 学年 |
| 発行者の 番号・略称 | 教科書の 記号・番号 | 教 科 書 名 | | |
| 81 山川 | 世 A 315 | 現代の世界史 改訂版 | | |

1. 編修の趣旨及び留意点

- (1) 編修にあたっては、近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解できるように配慮した。
- (2) 現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、世界史の基礎的知識に基づいて歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことができるように留意した。
- (3) 標準単位 2 単位で 16 世紀以降の近現代史を中心に学習するとの世界史 A の趣旨に従い、16 世紀以前については、諸文明の特質と交流を簡潔に叙述し、近現代史においても、歴史の大きな流れが理解できるように配慮した。
- (4) 各時代における日本の扱いを充実し、全体を通じて、アジアのなかの日本、世界のなかの日本という視点を意識できるよう留意した。
- (5) 種々のコラムを設け、世界史上重要な概念を的確に理解し、かつ歴史上の事象と今日の社会との繋がりを認識できるよう工夫した。

2. 編修の基本方針

- (1) 平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「世界史 A」の目標・内容・内容の取り扱いの趣旨に従い、かつ学習上の便宜を考慮して独自の構成をも加味し、本書を作成した。
- (2) 冒頭の「世界史へのいざない」については、中学校社会科との連続性に配慮し、日本の歴史と世界の歴史とのつながり、自然との関わりを、身近な素材から理解できるよう工夫した。
- (3) 前半の第 I 部については、世界の一体化の過程を歴史的に理解できるよう、後半の第 II 部については、現代の人類が直面する課題を政治・経済・社会・文化等さまざまな観点から考察できるように編修した。
- (4) 主題学習については、「持続可能な社会への展望」を自身の切実な課題として、生徒が興味をもって主体的に学習に取り組めるように工夫した。

3. 対照表

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|--|---|---|
| 世界史を学ぶみなさんへ 本書の構成 世界史へのいざない ①日本列島のなかの世界の歴史 世界史へのいざない ②地理的環境と歴史・文化 | * 冒頭に「世界史を学ぶみなさんへ」を設け、世界史を学ぶ意義をわかりやすく説明するとともに、続く「世界史へのいざない」で、身近な事象を取り上げて世界史への興味を引き出し、世界史学習への導入とした(第 1 号)。 * 「世界史へのいざない」で、日本独自の | 表見返し裏 2～5 ページ 2～5 ページ |
| | 伝統と世界の歴史との繋がりを自覚的に学 | |

| | | |
|-----------------------|-----------------------|-------------------|
| | 習できるよう配慮した（第5号）。 | |
| 序章 人類の歴史の始まり | *「序章 人類の歴史の始まり」を設け、 | 8 ページ |
| 第Ⅰ部 一体化する世界 | 先史時代の人類に関する知識を身につけら | |
| 第1章 諸地域世界の特質 | れるよう、配慮した（第1号）。 | |
| 1 東アジア世界 | | |
| 2 南アジア・東南アジア世界 | *世界史学習における地理的条件との関連 | 10 ページ 2 行目～ 11 |
| 3 西アジア世界 | をはかることの重要性に着目して、各地域 | ページ 9 行目、15 ペー |
| 4 ヨーロッパ世界 | の風土を、「東アジアの風土と人々」「南ア | ジ 10 行目～ 16 ページ 3 |
| 5 陸と海の交流 | ジアの風土と人々」「西アジアの風土と人々」 | 行目、18 ページ 21～ 32 |
| 第2章 アジア諸国の繁栄 | 「ヨーロッパの風土と人々」でそれぞれ簡 | 潔に述べた（第1号）。 |
| 1 モンゴル帝国の形成と解体 | | 13 ページ 7～ 22 行目、 |
| 2 東アジア・東南アジア諸地域の変動と再編 | *日本の歴史に関する叙述を設け、日本独 | 46 ページ 4 行目～ 48 |
| 3 近世の日本と世界 | 自の伝統と世界の歴史との繋がりを自覚的 | ページ 7 行目、115 ペー |
| 4 イスラーム世界の再編成 | に学習できるよう配慮した（第5号）。 | ジ 1 行目～ 118 ペー |
| 第3章 世界の一体化とヨーロッパ | | ジ 20 行目 |
| 1 大航海と世界の一体化の始まり | | |
| 2 16 世紀の西ヨーロッパ | | |
| 3 17～ 18 世紀の西ヨーロッパ | | |
| 4 16～ 18 世紀の東ヨーロッパ | *各所にコラム「現在へつながる歴史」を | 22、65、101、112、116 |
| 5 西欧を中心とする世界の一体化 | 設け、現代の社会の成り立ちを学ぶことに | ページ |
| 第4章 近代の欧米社会 | よって、いかにして今日の社会の価値観や | |
| 1 イギリス産業革命 | 規範が形成されてきたかを認識し、各自が | |
| 2 アメリカ独立革命 | 自覚的に社会へ参加する意識を養うよう配 | |
| 3 フランス革命 | 慮した（第3号）。 | |
| 4 反動と改革 | | |
| 5 ナショナリズムの時代 | *各所に「クローズアップ技術」の項目を | 41、43、67、75、105 ペ |
| 6 南北アメリカの道 | 設け、世界史と技術の関連を取り上げて興 | ページ |
| 第5章 ヨーロッパの進出とアジア | 味を引き出すよう、配慮した（第2号）。 | |
| 1 バルカン・西アジア社会の動き | | |
| 2 インド・東南アジアの植民地化 | | |
| 3 東アジアの動揺 | | |
| 4 東アジア国際秩序の変容 | | |
| 第Ⅱ部 現代世界と日本 | *「導入」を設け、第Ⅱ部で学ぶ時代の特 | 122～ 125 ページ |
| 導入 現代社会へ向かう世界 | 色や背景を概観できるよう配慮した（第 1 | |
| 1 高度資本主義と大衆社会 | 号）。 | |
| 2 民主主義と国民国家 | | |
| 第6章 帝国主義とアジアの民族運動 | *各所にコラム「現在へつながる歴史」を | 161、178、208 ページ |
| 1 欧米による世界の植民地化 | 設け、現代の社会の成り立ちを学ぶことに | |
| 2 民族運動と列強の対立 | よって、いかにして今日の社会の価値観や | |
| 第7章 二つの世界大戦 | 規範が形成されてきたかを認識し、各自が | |
| 1 第一次世界大戦とロシア革命 | 自覚的に社会へ参加する意識を養うよう配 | |
| 2 ヴェルサイユ体制と欧米諸国 | 慮した（第3号）。 | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>3 民族主義の新展開</p> <p>4 世界恐慌とファシズム</p> <p>5 第二次世界大戦</p> | | |
| <p>第8章 冷戦の時代</p> <p>1 冷戦の形成と第三世界の登場</p> <p>2 核戦争の危機</p> <p>3 多極化と緊張緩和</p> <p>4 冷戦の変質</p> <p>5 冷戦の終焉</p> <p>6 冷戦下の日本</p> | <p>*日本の歴史に関する叙述を設け、日本独自の伝統と世界の歴史との繋がりを自覚的に学習できるよう配慮した(第5号)。</p> <p>*地球規模での今日の課題を考察するにあたっては、とくに「地球規模の矛盾と問題解決への努力」の項を設け、環境問題の重要性を喚起した(第4号)。</p> | <p>201～202ページ、210ページ 20行目～211ページ</p> <p>204ページ 18行目～205ページ 5行目</p> |
| <p>第9章 グローバル化する世界</p> <p>1 グローバル化の進展</p> <p>2 変貌する世界の諸地域</p> <p>3 日本の現状と未来への模索</p> | <p>*「クローズアップ技術」の項目を設け、世界史と技術の関連を取り上げて興味を引き出すよう、配慮した(第2号)。</p> | <p>206ページ</p> |
| <p>主題学習 持続可能な社会への展望</p> <p>「平和」な社会をめざして</p> | <p>*本文末に「主題学習 持続可能な社会への展望」を設け、生徒の主体的な探究を通じて、歴史的視野から社会への関心を深めるよう留意した(第2号)。</p> | <p>212～215ページ</p> |

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 平易な叙述に努め、振り仮名や参照ページも丁寧に挿入して、生徒が自主的に学習できるよう配慮した。
2. 写真をはじめ図版および図版説明を充実し、学習に際して具体的なイメージを提示できるよう留意した。
3. 地図はカラーユニバーサルデザインも考慮して、読図しやすいよう配慮した。

| | | | |
|-------------------|-----------------------|-------------|----|
| 2 16世紀の西ヨーロッパ | | | |
| 3 17～18世紀の西ヨーロッパ | | | |
| 4 16～18世紀の東ヨーロッパ | | | |
| 5 西欧を中心とする世界の一体化 | | | |
| 第4章 近代の欧米社会 | ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 | | 9 |
| 1 イギリス産業革命 | | | |
| 2 アメリカ独立革命 | | | |
| 3 フランス革命 | | | |
| 4 反動と改革 | | | |
| 5 ナショナリズムの時代 | | | |
| 6 南北アメリカの道 | | | |
| 第5章 ヨーロッパの進出とアジア | エ アジア諸国の変貌と近代の日本 | | 6 |
| 1 バルカン・西アジア社会の動き | | | |
| 2 インド・東南アジアの植民地化 | | | |
| 3 東アジアの動揺 | | | |
| 4 東アジア国際秩序の変容 | | | |
| 第Ⅱ部 現代世界と日本 | (3) 地球社会と日本 | 121～215 ページ | |
| 導入 現代社会へ向かう世界 | ア 急変する人類社会 | | 2 |
| 1 高度資本主義と大衆社会 | | | |
| 2 民主主義と国民国家 | | | |
| 第6章 帝国主義とアジアの民族運動 | イ 世界戦争と平和 | | 5 |
| 1 欧米による世界の植民地化 | | | |
| 2 民族運動と列強の対立 | | | |
| 第7章 二つの世界大戦 | | | 11 |
| 1 第一次世界大戦とロシア革命 | | | |
| 2 ヴェルサイユ体制と欧米諸国 | | | |
| 3 民族主義の新展開 | | | |
| 4 世界恐慌とファシズム | | | |
| 5 第二次世界大戦 | | | |
| 第8章 冷戦の時代 | ウ 三つの世界と日本の動向 | | 10 |
| 1 冷戦の形成と第三世界の登場 | | | |
| 2 核戦争の危機 | | | |
| 3 多極化と緊張緩和 | | | |
| 4 冷戦の変質 | | | |
| 5 冷戦の終焉 | | | |
| 6 冷戦下の日本 | | | |
| 第9章 グローバル化する世界 | エ 地球社会への歩みと課題 | | 3 |
| 1 グローバル化の進展 | | | |
| 2 変貌する世界の諸地域 | | | |
| 3 日本の現状と未来への模索 | | | |
| 主題学習 持続可能な社会への展望 | オ 持続可能な社会への展望 | | 2 |
| 「平和」な社会をめざして | | | |
| | | 計 | 70 |